

小中一貫教育の推進	中期(3年間) 経営目標	短期(今年度) 経営目標	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画	
					3月 評価	結果と課題の説明	適正	意見等	改善案	
確かな学力	学力の三要素、資質・能力を育成する「主体的な学びを促す授業」の実践	基礎的・基本的な知識技能を習得した児童	① 家庭学習やりきり週間をきっかけにして学習習慣の定着を図る。 ② ドリル・ことばタイムの時間を実態に即した内容で行い、基礎学力の確実な定着を図る。 ③ 読書習慣の定着(たくさん読む) 【教務】	①単元末テストの到達度 ・算数の各観点(知識・技能・思考)各85% ・国語(読解)82% ②読書貯金目標達成率80%(低:月8冊、中:月12冊、高:月500ページ)	B	①単元テストの到達度 算数(知識87%○、技能85%○、思考81%▼)達成率99% 国語(読解89%○)達成率108% □算数では1学期に比べるとどの項目もわずかながら下がっている。ミニドリルタイム等の取組をさらに行う。 ②読書貯金目標到達度56%▼(達成率70%) □低→37%、中83%、高50% □高学年が伸びたとはいえ、全体的に低い。家庭読書につながる取組が必要。	○	○思考81%は頑張っている。算数の取組が達成率につながっている。学びが楽しくて結びついていることは日々の指導のおかげである。 ○読書、図書との接し方、接しやすさ、表示、本を身近に感じさせる方法がまだ不足している。興味を持てない子どもと出会うことも大事。家庭での読書開かせもとても大切。低学年から読書習慣を身に付けさせるように引き続き取組を。家庭での読書は保護者の協力の継続が大切に取り組んでほしい。 ○国語科を重要科目として行ってよかった。しかし、算数が下がったのは残念。読解力など算数・理科などで必要なことを伸ばしてほしい。	○引き続き、日々の授業改善をして思考を深める授業を進める。基礎基本の力を付けるとともに、活用力を高めるために、配習内容のつながりを工夫したプリント等を用意する。 ○読書習慣をつけるため、休日の宿題(感想を書く)朝の会(ペリオパトル、1分間スピーチなど)、活動形態(ペア読書、必読カードの作成など)の工夫を行う。	
		主体的・探求的な学びの姿勢を持つ児童	① 「ベスト発問」による思考の深まり ② 児童の「問い」から生まれた課題設定による対話的な学びを展開する。 ③ 語彙力を増やし、自分の考えを発信する活動の展開(俳句づくり等) 【教務】	・「課題発見・解決学習」児童質問紙「考えることが楽しい(普段の生活や学習にこれまでの学習を生かす)」と答える児童94%◎(達成率117%) □国語科の研究やそれを生かした授業改善を行うことにより意欲的に学習する児童が増えたといえる。 ・教職員質問紙肯定的評価97%◎達成率125% □授業改善を意識して取り組んだ。多様で深い学びにつながる授業づくりを目指す。	A	・「課題発見・解決学習」児童質問紙「考えることが楽しい(普段の生活や学習にこれまでの学習を生かす)」と答える児童94%◎(達成率117%) □国語科の研究やそれを生かした授業改善を行うことにより意欲的に学習する児童が増えたといえる。 ・教職員質問紙肯定的評価97%◎達成率125% □授業改善を意識して取り組んだ。多様で深い学びにつながる授業づくりを目指す。	○	○先生方の児童の思考を伸ばそうとしている姿勢に感謝。達成率の高さは努力の成果だと感じる。児童が学びを楽しみ、学習に積極的に興味を持つ姿も頼もしい限りである。 ○基礎ができてこそ探求すると思う。興味を持って行うと良い結果が出ると思う。児童一人一人の能力が違っているので、良いものを発掘できるとうれい。 ○自主性・主体性・探究は心の中から自然に出てくるものだと思う。	○朝学習に週3回ことばタイムを設定し、様々な活動活動を取り組むことで、即興力と表現力を育てるとともに、「考えることが楽しい」という主体的な学びの取組を増やせる。	
健やかな体・豊かな心	健康な心と体の育成 【規範意識と自己肯定感を育成】	健康な体を作るために自分の記録に挑戦する児童	○行事に目標を持たせる 「北小ギネス」「北っ子のびのび体操」「北っ子トレーニング」「食育19の日」	・新体力テスト「県平均値または全国平均値以上」の項目は、53/96項目であった。▼ ・8種目のうち、長座体前屈(10/12)、握力(9/12)、50m走(8/12)、立ち幅跳び(8/12)において課題が大きかった。児童の課題を職員間で共有し、「北っ子のびのび体操」の内容を課題に合わせて改善したり、体育授業で多様な動きを取り入れたアップを行ったりしている。また、体育行事(マラソン大会、なわとび大会)に目標をもたせて取り組ませた。成果が表れるまで継続して取り組む必要がある。	C	・新体力テスト「県平均値または全国平均値以上」の項目は、53/96項目であった。▼ ・8種目のうち、長座体前屈(10/12)、握力(9/12)、50m走(8/12)、立ち幅跳び(8/12)において課題が大きかった。児童の課題を職員間で共有し、「北っ子のびのび体操」の内容を課題に合わせて改善したり、体育授業で多様な動きを取り入れたアップを行ったりしている。また、体育行事(マラソン大会、なわとび大会)に目標をもたせて取り組ませた。成果が表れるまで継続して取り組む必要がある。	○	○体力がやはり弱いと思う。体育だけでなく、学校生活、家庭での取り組みが必要。家庭でも体力づくりを行うような習慣を付けさせてはどうか。 ○食育を生かしていくため大切なことだと思う。 ○すぐに良い結果が出る物ではないので、中・長期的観点から継続的に取り組む。努力が感じられるが、体づくりは時間が必要だと思う。結果が表れるまで、地道にチャレンジしていただきたい。	○今年度の新体力テストの結果を踏まえた取組を通じて、職員で連携を図っている(12月)。体育授業での取組を継続するとともに、行間体育(3分間マラソン、3分間なわとび)、日常生活で体力を向上させる取組(掃除での雑巾がけ、雑巾がけ、机の持ち運び等)について、年間を通して行っていく。 ○長期休暇配布している「のびのびカレンダー」(ストレッチ等の宿題)を、年間を通して行う。	
		掃除の徹底を通して、相手を思いやり、気配りができる児童	○「無言掃除の徹底」 縦割り班長をリーダーとして時間の使い方を工夫してやりきる 【掃除の目指す姿】 黙って・自分で見つけて・協力して・丁寧に 【健推】	・児童アンケート 「自分は無言掃除ができて」80% ・指導者評価 「児童は無言掃除ができて」80%	C	・児童アンケートにおいて、「自分は無言掃除ができて」と回答した児童は、83%であった。(1月) ・指導者評価において、「児童は無言掃除ができて」と回答した指導者は、0%であったが、児童の姿は前年度に比べて改善されているという意見が出された。 ・無言掃除ができていると回答した児童が8割を超え、縦割り班で協力して掃除に取り組んでいる様子も多く見られるので、積極的に肯定的評価をしていき、無言掃除の実現につなげていく。 ・無言掃除を意識させるための「そうじピカピカデー」の実施を継続している。	○	○一生懸命掃除をしたら無言になる。指導者の求める物と児童の思いが異なるのを、教師は全体的に捉えるので児童と指導者の評価が近づくとを期待。縦割り班の取組に向けた学び合うことができるチャンス。掃除がどうできているかを話し合う日も必要。 ○大人も一緒に言葉と交わしながらしてもいいので、低学年の児童に対する無言掃除は難しい。「そうじピカピカデー」の実施を継続してほしい。 ○一斉下校の場面で評価しているのをよく見かけた。みんなで認め合うのが気持ちが出る。 ○この健推が大切な取組である。まずきれいな学校・教室・そして自分たちできれいにしたという気持ちを持って取り組んでいくとよい結果が出ると思う。	○「食育19の日」の取組等、食育に関する取組を、年間を通して行っていく。 ○学校をきれいにすることの良さを実感させたり、一生懸命掃除に取り組んでいる姿を評価したりすることで、児童が進んで掃除一生懸命取り組むようになり、自己肯定感を高めたりできる取組をしていく。 ○「そうじピカピカデー」に継続して取り組む。 ○縦割り班活動の良さや、コミュニケーションを取る大切さから、一律の「無言掃除」の実施も考えて、再検討していく。 (例)1か月ごとに掃除場所が変わるので、最初の週は教員と合わせてコミュニケーションを取ったりすることを大切に、2週目以降は児童だけで無言掃除を目指す。	
丁寧なあいさつ習慣により相手を思いやり大切にできる児童	○ 児童会活動を中心として挨拶の励行・肯定的評価・徹底を図る 【挨拶の目指す姿】 元気な声・笑顔・帽子を脱いで・立ち止まって・自分から挨拶をする。【生徒指導】	・「自分につけるあゆみ17挨拶」は、93%だった。▼ ・「あいさつ運動 模範児童紹介人数」は、45%だった。よい挨拶をする児童が増えているが、目標の人数までは至らなかった。児童会の模範児童の紹介・3学期の6年生による模範児童の紹介の取り組みは効果的だったと考える。来年度は、休憩時間の校内でも進んで挨拶ができる児童の人数を増やしていきたい。▼	C	・「自分につけるあゆみ17挨拶」は、93%だった。▼ ・「あいさつ運動 模範児童紹介人数」は、45%だった。よい挨拶をする児童が増えているが、目標の人数までは至らなかった。児童会の模範児童の紹介・3学期の6年生による模範児童の紹介の取り組みは効果的だったと考える。来年度は、休憩時間の校内でも進んで挨拶ができる児童の人数を増やしていきたい。▼	○	○自分の身体を認め、「ごめんなさい」が言え、相手を褒めることができ「すごいね」と言えたらよい。 ○良く挨拶をしている。目標値に対する数値は低いが、全体的に底上げできている。上下の子も適し、挨拶を良くしていると聞く。日頃の指導や意識作りの成果だと思う。今後も効果的な取組ができればよい。 ○挨拶士大人も積極的にするべきである。	○挨拶時間を設定する。挨拶の目指す姿を見直し伝える。学級で目標を立て、一日の終わりに振り返りをする。以上のことを通して児童の挨拶への意識を高める。			